



高○沙耶 導入編+準備編
ZIPファイル

う……ん……

ん

局長、
検体が目を
覚まします。

うむ、
ではチェックを
始める。

はい。

検体の脈拍血圧
全でのバイタルに
異常なし。

いつでも検証を
始められます。

よし、
では映像の録画及び
データの収集を
開始しろ。

検証体の録画及び
データ収集開始。

ん…え…?!

きゃあああああつ!

アッアッ

アッアッ

なっ?! なんでっ?!
なんで裸なのっ?!

お目覚めかね
高○沙耶くん。



誰よあなたたち！

ていうか何よこれ！
こんなことして
許されると
思ってるの！

はあ、

はあ、

検体の
脈拍血圧
共に上昇。

手荒な真似をしてすまない。
事が簡単に進むように
まずは我々の正体から
話じておこう。

我々はあらゆる脅威を
安全に制御する目的で
結成された組織
通称S C A Tだ。

なお我々の研究は
一國からの指示で行っており
一般人の拉致はもちろん
どのような事象も全面的に
許されている。

?!

(Safe control all Threat)

今は国からの指示を受け「奴ら」の研究を行っているのだが…

はあ?!
だったら「奴ら」を
捕まえて研究しなさいよ!

なんでJK素っ裸にして
拘束してんのよ!

うむ、気持ちは分かるが
まあ聞いてくれ。

君たちは知っているだろうが、
「奴ら」にも好き嫌いが
あるという事を。

は? そんなの知るわけないでしょ!

ふ、まあそつたな、
でもよく考えてみたまえ
皆平等に襲われたとすれば
跡形もなく食われてしまえば
新たな「奴ら」は生まれえない。

しかし「奴ら」は増えていく、
なぜならほんの少ししか
食われないものがあるからだ。

食べた瞬間まずいと
判断した場合それ以上
食わないのだ、
そういうものが
次の「奴ら」へと変貌
してゆく。

それを繰り返していくうちに
「奴ら」は美味しい肉が
不味い肉かを襲う前に判断が
出来るようになるらしい。

その結果、
不味い肉の持ち主は
他のものど比べ明らかに
襲われにくいくという事が
研究で判明した。

そして前から目を付けていた君たち、
学生でありながらここまで
生き抜いているという事はだ……

君たちの肉は全員不味い。
という結論にたどり着いた。

はあ?! 何言ってるの?!
死ぬほど襲われてるんですけど!
皆で必死で切り抜けて今
生きてるだけなんですけど!

たしかにそうかもしれないな、
だが君たちは知らないのだから
美味しい肉を持つ人間の
襲われ方を……

この辺の人口から考えて、
美味しい肉のものが襲われる際の
「奴ら」の数は八百〜千体。

文字通り「奴ら」の津波が
三百六十度全方向から押し寄せ、
もの三分で跡形もなくなる。
狙われたら逃げることは絶対に
不可能なのだよ。

は、

は、

きゃっ

せ、千つて……
嘘でしょ……

嘘ではない
我々はそんな現場を
監視ドローンで何度も
見ている。

さて……
ではそろそろ本題に入ろう、
今から不味い肉である
君の身体を使い「奴ら」を
避けるための検証及び実験を
させていたただく。

実験体の人権は無視して
構わないと国から許可を
得ているので拒否は
できない。

そ、そんな……っ！

……そついでにっついでにっついでにっ
言わなくてはいけな
いことがある。

はあ

はあ

「奴ら」が不味い肉以上に
拒否するもの……それが糞尿だ。

ふ……
糞尿……？

?!

どんなに食い散らかされた
遺体であっても必ず
糞尿部分は残っている。

恐らく生前の本能から
食ってはいけないものとして
残っているのだろう。

ただでさえ「奴ら」が嫌う
不味い肉を持つ者が出す糞尿……
我々はそこに「奴ら」を
遠ざけるヒントが
隠されていると考えている。

え……？な、何言ってるの？
一体何するつもり……？!

……すまない、
だがこれは未来の人類の為だと思ってくれ……
よし、ではこれより不味肉糞尿効果検証実験
を開始する、用意しろ。

強制排泄物増加液
注入準備。

きゃあっ!

な……なに……
何するの……?

まずは君の腸内に
特殊な液体を注入し
強制的に大量の
排泄物を作成する。

残念だが我々には
君が時間をかけて
排泄物ため込むのを
待っている暇は
ないのでね。

やっ!
いやっ!
やめてっ!

先ほども言ったが
君に拒否する権利はない。



あーっ!

あっ!
あがっ?!

ガクッ

はあ、

はあ、

ガクッ

ほら、
もつと肩の力を
抜きたまえ。

力を入れるほど
苦しく感じるぞ。

グッ
グッ

びく
びく

がはっ!
おっ!お尻?
どんどん奥に
入って...っ!

ズ
ズ

ああ、この装置は
先端が伸びて君の
直腸の隅々まで
排泄物増加液を
射出するからね。

しっかりとした効果を得るには
腸内に満遍なく液体を
浸透させる必要があるのだよ。

うぐぐっ！
あぐっ！

ぐ、

いきまっ！

アッ

アッ

びん

びん

びん

びん

うう、お腹苦し…い
なんで私がこんな
目に…

排泄物増量液
90%注入完了。

もう少しだ沙耶君
苦しんだらうが
我慢してくれたまえ。

ふっ！
ふっ！

ほく、
ほく、

アッ

はあはあ
すげえ…
あんなに「マン」が
痙攣して…

これから実験中に
不謹慎だぞ。

すみません。

尿增量液
準備完了。

尿って！
えっ?!えっ?!

大便の準備が
完了したので
次は小便の準備を
させていただきます。

尿道確認の為
まんご開放します。

ぢまっ

ス

ぐい

ぐ

ぐ

ぐ

いやあーっ!
だめっ!だめっ!

まんご開いちゃだめえっ!

尿道位置確認。

これより尿道への
注入を開始する。

増量液
注入開始。

いやあああつ！

あつ！
あつ！

はあ、
はあ、

はあ、
はあ、

あつ！

膀胱への増量液
浸透率20%完了。

検体の血圧心拍数
急激に上昇中、
手エツクよろしく。

浸透率60%。

検体のバイタル確認、
血圧心拍ともに
許容範囲内の為
実験続行します。

80%。



増量液注入完了。

続いて
漏れ防止装置の
挿入を行います。

いぎやあああつ！

あがつ！
いぎつ！
うぐおおおつ！

やつ！やめつ！
まんこ壊れるうーつ！

カッ

カッ

ぐいっ

めい
めい

めい
めい

クッ
クッ
クッ

クッ
クッ
クッ

クッ
クッ
クッ



大便小便ともに
増量液の注入完了。

ご苦労、
では沙耶君には
排泄物が出来上がるまで
そのまま待機してもらおう。

む…無理…
お腹爆発しそう…

く、苦し…

お願いトイレ…
トイレ行かせて…

それは無理だ、
君の糞尿は貴重な
研究材料なのだから
トイレでさせるわけには
いかんのだよ。

しかし我々も鬼ではない、
少しでもその苦しみが
減るように対処しよう。

30分

30分

30分

30分

30分

どれ沙耶君の
クリチンポは
どんな感じかな。

おお、
これはピンクで可愛い
クリチンポだな
さすがJKのクリチンポ。

いつ?!

なっ?!
なにをっ!

むき

ぐい

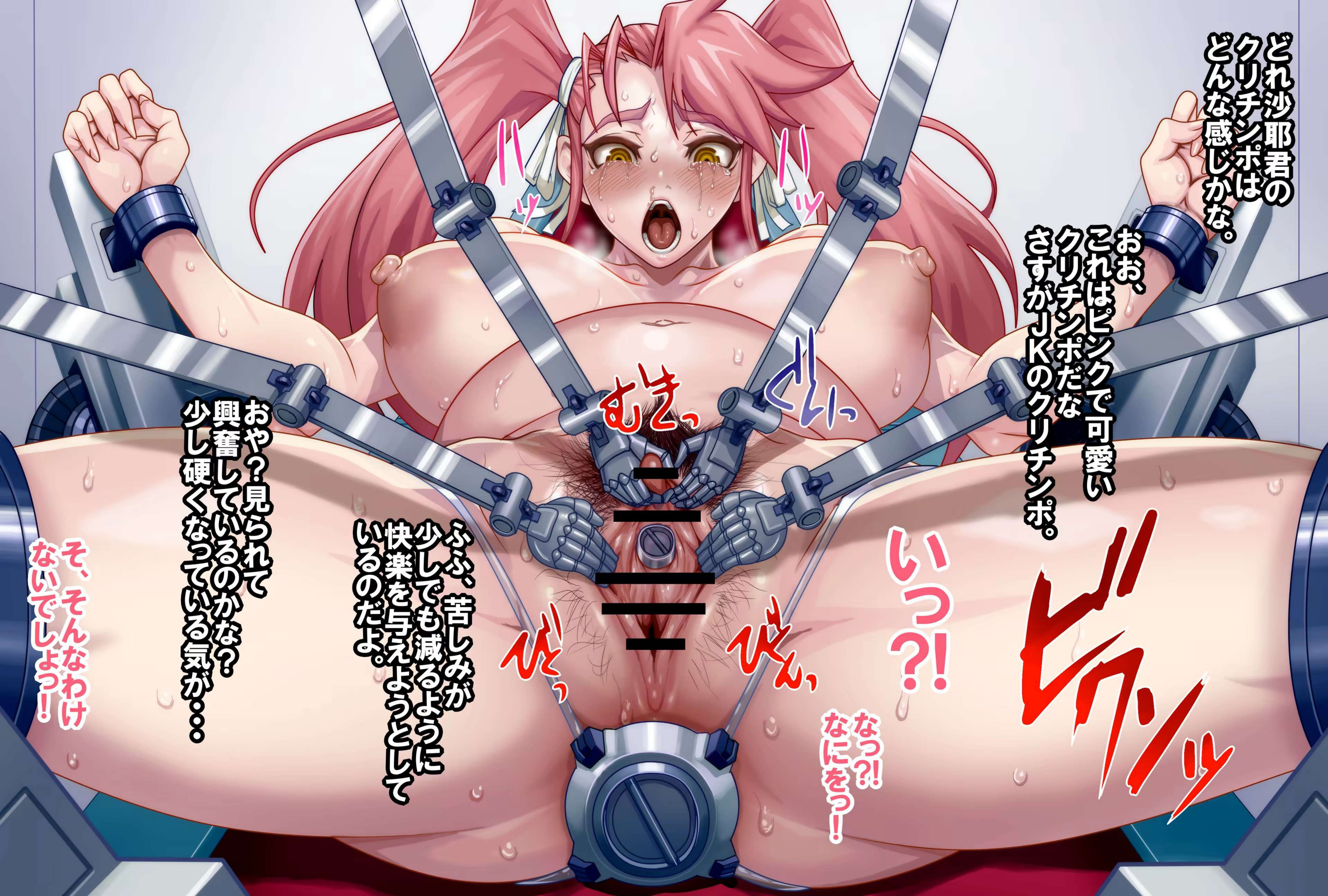
びん

びん

ふふ、苦しみが
少しでも減るよう
に快樂を与えよう
とじているのだよ。

おや?見られて
興奮しているのかな?
少し硬くなっている気が...

そ、そんなわけ
ないでしょう!



あ、局長ずるいっすよ
俺たちにもやらせて
くださいよー！

はは、好きにしまえ。

じやあ俺乳首
いじめちやお。

いーいーいー！

お、お

あ、あ

あ、あ

あ、あ

あ、あ

あ、あ

あ、あ

あ、あ

あ、あ

ほらほらJKの乳首勃起
させてみせてよー！

おほ、だいぶクリチンポ
起ってきた。

あっ！あっ！
うあああっ！

あ、あ

あ、あ

あ、あなたたち……
やっぱりただの変態じゃない！

国の許可があるからって
こんなこと……！！

ふん、小娘に何がわかる。

この職員は激務の為
半年は家に帰れていない！

ちなみに局長の私はもう
3年7か月家に帰れてなくて
妻にも娘にも会えて
ないんですわ！

だからこのくらの
楽しみがないと
やってられないのだよ！

ぶつちやけ素っ裸にする
必要性も無いんだけどね。

增量液も経口摂取で
大丈夫だしな。

JKのまんこと
アナル見たかっただけ。

あ、局長見てください
ヨイツ処女っすよ。

きやあああっ！

ビッ

いっ

いっ

ゆ、許さないっ！

許さないわよあなたたち！

はっ！君が許さなくても
国に許されてるのだよ
私たちは！



ほらそろそろ糞も小便も十分溜まったただろうっ！

ぶっ放す前に軽く一発
いつときなクソガキが！

いひいひーっ！

おらもっどマンコ開いて
処女膜丸出しでイケ！

だめっ！
処女マンコは
開いちやだめなのっ！

ひん、ひん、

ひん、ひん、

あーっ！
シコらないでっ！
乳首もクリも
シコっちゃだめえっ！

駄目だ、
処女マンコイキするから
シコリ倒す。

こんなのでイクのいやだっ！

あー！でもイクっ！
いやだっ！イクっ！
やっ！あーっ！

ハハハ

ハハハ

ハハハ

ひん、

ひん、

シュ

シュ

シュ

シュ

シュ

ぐんぐん

ぐんぐん

さあどうだった？
思ってたより本当に
苦しみが減ったんじや
ないかな。

う……あ……

はあ、
はあ、

さてそれではそろそろ
排泄をしていただきますか。

え……ま、まさか
ムジでさせる気じゃ……

その通り君には
我々の見てる前で
脱糞をしてもらおう。

ひく、
ひく、

ひく
ひく

勿論ここでさせるのは
我々が見ただけだがね。

そんなっ?!
嘘っ!嘘っ!

いっ!いっ!
絶対いっ!

人前でうんちなんて
絶対にいやあっ!

どんなに嫌がるうが
残念ながら君はここで
脱糞するのだよ。

なぜなら君の「嫌！」より
我々の「見たい！」のほうが
気持ちが高なのでね！

な、なによそれ！
そんなわけないでしょ！

いや、そんなわけある！

ない！

あるぞー！

あるー！

頭イってんのかマコの職員！

休みなしで「奴ら」の研究
やってんだぞ！
そりゃ頭おかしくもなるわ！

はっ
はっ

ああもう待ちきれない！
防止装置を外せ！

いやあああーっ！

人前でうんこなんて
絶対嫌ああーっ！

絶対やだっ！
絶対やだっ！

いやあー局長
楽しみですね。

だ、私ももう
ワクワクが止まらんよ。

さあ沙耶君はどんな
脱糞を我々に見せて
くれるのかなあ。

お

るる

ウエイ

ん

び

ん





























